

移築され新たな役目を吹き込まれた民家

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

たかつきしりつれきしみんぞくしりょうかん・きゅうささいけじゅうたく
高槻市立歴史民俗資料館・旧笹井家住宅



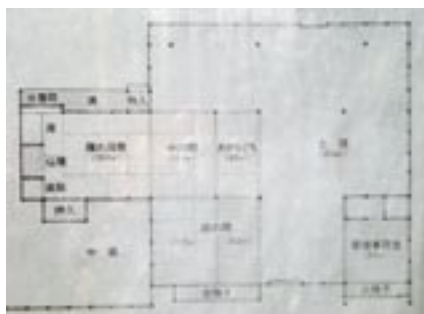
正面入口（妻入形式）側から見た全景



裏側の妻面（切妻形式にも見える）



ロボットの顔にも見える正面妻壁の空気抜き穴ほか



掲示されていた平面図（「店の間」の文字が見える）

所在地： 高槻市城内町 3-10（城跡公園内）
最寄駅： 阪急高槻市駅から南へ徒歩 15 分
見学： 無料 大勢での見学時には静粛に
休館日： 毎週月曜日・国民の祝日の翌日・
年末年始（12月28日～1月3日）
TEL： 072-673-6446
高槻市指定文化財（昭和47年9月12日指定）

野見神社・永井神社の南側には高槻城の城跡が公園として整備されている。城跡公園と呼ばれる広場には緑が多く植えられ、市民の憩いの場になっている。この公園の一角に低木の緑に囲まれる様に高槻市立民俗資料館が静かに佇んでいる。漆喰で塗り籠められた大きな白い妻壁と本瓦で葺かれた黒い直線の屋根の稜線が、資料館の存在を控えめながらも主張している。

高槻市立歴史民俗資料館として生まれ変わった旧笹井家住宅は、元々この場所にあったものではなく、紺屋町と呼ばれていた現在の高槻町が原所在地であり、紺屋に代表される商家が沢山並んでいた城下町の一隅に建てていたとも考えられる。復原平面図によれば、正面入口の中は大きく開いた土間で、鍵の手に奥まで土間が続いている。店の間と呼ばれる空間が正面玄関の左側に付随しており、更にその他の諸室が奥へ奥へと展開している。店の間が存在していることから推せば、商家を営んでいたとも考えられ、高槻市もこの建物を旧商家として紹介している。1987年に出版された「大阪の民家」によれば、『米穀を商って四代続老舗』として紹介されており、大きな土間に米俵を並べて、手広く商いをしていた様子を想像することができる。

旧笹井家住宅は、江戸時代中期に創建された町屋である。茨木・高槻に現存している民家や町屋は殆どが平入りの形式であるにも関わらず、旧笹井家住宅は妻入りの形式を採っており、当地域の町屋としては珍しい部類の形式を持っている。屋根は入母屋形式であるが、下屋部分の突出が約半間と少ないので、屋根の上に載った三角形の妻壁部分が裏側の妻部分では大きく広がっており、切妻形式の屋根である様にも感じられる。正面側の妻面は下屋の上にもう一段屋根を造り込み、下屋が二段構えになっており、屋根の上に載った三角形の妻壁の大きさは、よく見られる形態に似通っている。屋根を支える小屋組は構造的にも珍しい形態を持っており、草葺きの屋根を支える又首組と棟束を併用した形式となっている。技術が進歩する過程を語る貴重な時代の生き証人であると考えられる。（神保 勲）